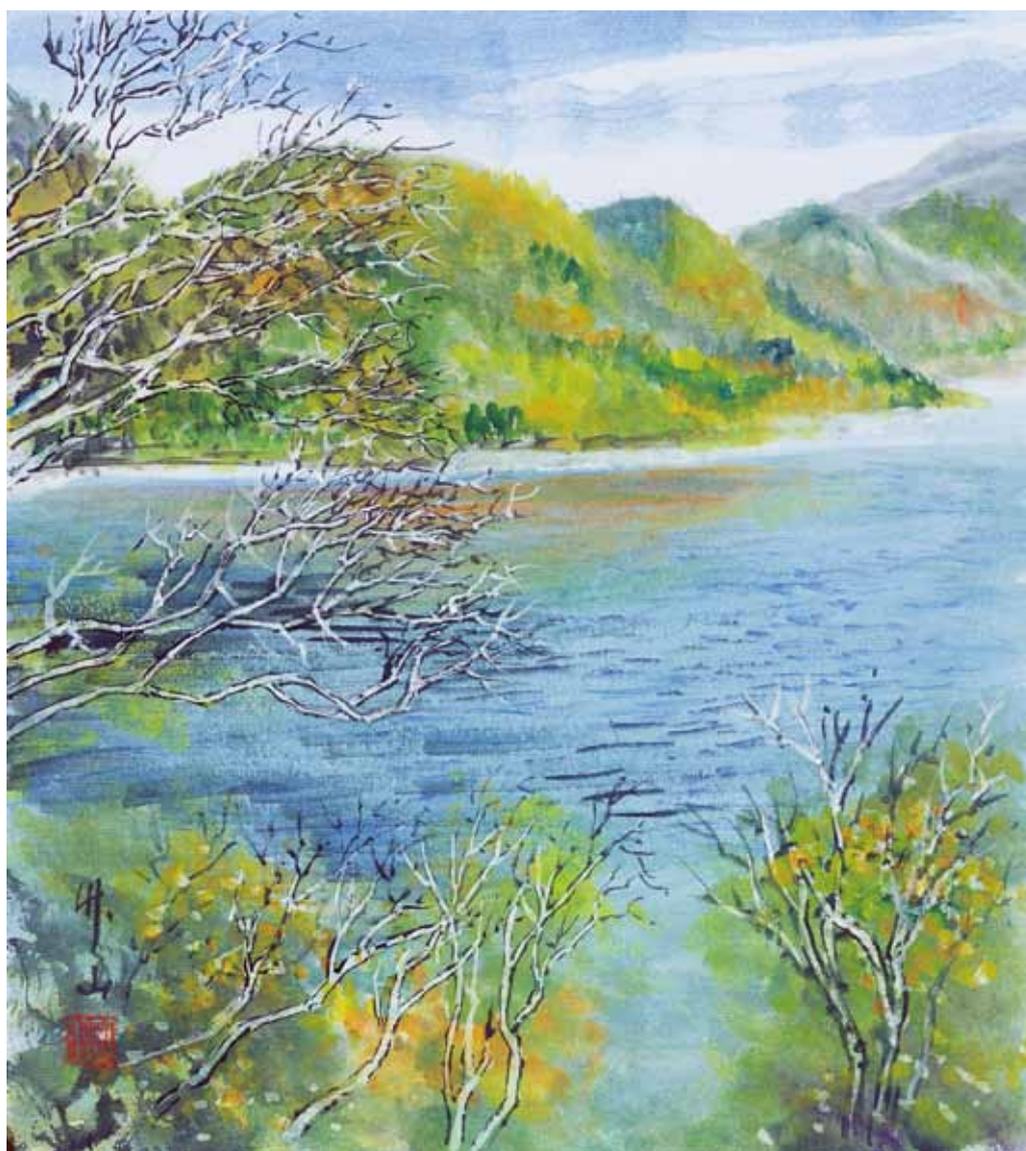


福 井 県 医 師 会

だより

第678号 平成29年(2017)12月



錦秋の九頭竜湖

福井市 竹越 忠美

表紙写真説明：錦秋の九頭竜湖

福井市 竹越 忠美

九頭竜ダム（1968年完成）によって九頭竜川がせき止められてできた広大な人造湖は豊かな自然に囲まれ四季折々の美しさを見せてくれる。春は「万本桜」、昨年当地を訪れたころは、秋の紅葉の季節で息をのむような美しさに圧倒された。

醫 縫 録

院長就任のご挨拶

～地域小規模病院における連携確立に向けて～

坂井市立三国病院長 鉛 嶋 慎 吾



平成29年4月1日に坂井市立三国病院長に就任しほぼ半年が過ぎていきました。この間福井県医師会（とくに坂井地区医師会）の先生方には様々なご指導を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。遅くなりましたが本誌面をお借りして、院長就任にあたってのご挨拶を申し上げます。

私は、福井県勝山市出身で、昭和60年3月に富山医科薬科大学（現、富山大学）医学部を卒業し、同年春に福井医科大学（現、福井大学）医学部内科学（3）教室（宮保進教授）に入局致しました。研修医期間の後、当時北陸には専門医がごくわずかであった呼吸器内科学分野を専攻することになりました。呼吸器内科医として経験を積んでいく一方で、腫瘍免疫学や肺循環障害などの基礎研究にも従事しました。後者においては石崎武志先生のご指導を賜り、後の米国コロラド大学・肺高血圧センター（デンバー）への留学にも繋がりました。時間的にも経済的にも余裕をもって研究に没頭できる環境下に身を置いて、基礎研究の楽しさや重要性を学びながらとても貴重な体験をさせていただきました。帰国後は内科学（3）教室（当時、宮森勇教授）の医局長として、教育や管理運営にも関わるようになり、長きに亘って県医師会の先生方とも様々な連携を取らせていただき大変お世話になりました。その当時は新たな研修医制度の煽りで地方大学病院での研修医が減り、内科の志望者も極端に減った時期で、私自身も医師派遣などでは大変苦勞しましたが、それ以上に関連医療機関の先生方には長年多大なご迷惑をお掛けしたことと存じます。ようやく研修医制度も新たな局面を迎えようとしている折、昨年夏に坂井市立三国病院長就任のお話を戴き、腰地孝昭先生（福井大学医学部附属病院長）、石塚全先生（現、内科学（3）教授）のご推挙もあって、現在に至っております。

当院は、100年以上の歴史があり、市町村合併

を機に坂井市立三国病院となり、同時期に現在の明るい雰囲気のある病院に生まれ変わりました。小規模病院ながら多くの診療科を抱え、その中には地域子育て支援を支える産科・分娩部門や小児科部門が含まれ、透析センターも備わっております。また高齢化社会を支えるべく本年夏より地域包括ケア病床が開設されました。このように本来地域医療の核となるべき公立総合病院ではありますが、各部署がそれぞれ十分に稼働しているとは言い難く、地方の公的病院が多く抱えている問題点を認識しました。各部署のマンパワー不足に起因するところもありますが、事務職も含む病院スタッフ間の連携不足や病院改革の意識不足も大きいと感じました。就任して早々、各スタッフには「連携」と「教育」という目標をまず掲げました。「教育」では、各スタッフ個々のスキルアップや地域医療の向上を目的とした院内外多職種参加型の教育環境を提供することを考えています。「連携」は地方の病院が生きていくためには必須であります。地域の病院として大規模病院からの患者受け入れなどの連携も大変重要である一方、地域でご開業されている先生方との連携、老人施設や在宅介護施設との連携はさらに重要となります。これらを潤沢に進めるためには「地域連携部」の充実が必要であり、若いスタッフを中心に、日々スキルアップを図り、改革に邁進しているところです。

私自身、院長として全く未熟でございますが、顔の見えるところで地域の皆様と連携を図り、来る2025年問題に向けて地域医療の発展に貢献すべく環境整備に努めて参る所存です。医師会の先生方には今後ともご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。